

カナダ・トロント市の創造都市 （クリエイティブ・シティ）づくり

都市環境、芸術文化・ビジネス・居住機能の改善に挑むトロント市。その都市再生展開は行政の総合的かつ緻密な実践戦略に基づき、多様な民間関係者とともに取り組んでいる（2008年9月トロント市訪問報告）

（株）都市構造研究センター 代表取締役 南部繁樹

250万人の人口を擁するカナダ・トロント市は、オンタリオ州の州都であり、カナダ最大の都市でもある。「トロント」とは、ネイティブアメリカンの言葉で「出合いの場所」を意味する。

世界に発信し続けてきた都市づくり

1965年に完成した世界的に有名なトロント市役所。58年に世界最大規模の設計コンペを実施、市の象徴として現存し、市役所前広場は近々に市民共有空間として新たな改修が行われる予定である。

また、76年に完成した高さ



トロント市役所

553・33階のCNタワー。都市のランドマークとなる最も代表的な建築物も存在。

ドミニオン・バンク・タワー（56階・223m）を筆頭に、多くの有名建築物も存在して

さらには、77年に完成したカナダ東部最大のショッピングセンター・イートンセンター。現在は店舗以外に「ライオンズ大学経済学部研究棟」なども併設されている。

戦後の高度成長を通じて都心再開発が積極的に行われ、67年完成のミース・ファン・デル・ローエ設計による「トロント



イートンセンター

いることは知られている。2010年には、70階建ての「トランプ・タワー」が完成予定である。

芸術・文化施設を積極的に整備

04年に完成した、ウィル・アルソップ設計の「オンタリオ美術デザイン大学・シャープセンター」。

06年6月に完成した「フォーシーズンズセンター」は、カナディアン・オペラ・カンパニーとカナダ国立バレエ団の本拠地として利用されている。

07年6月に拡張工事が完成した「ロイヤル・オンタリオ・ミュージアム（ROM）」

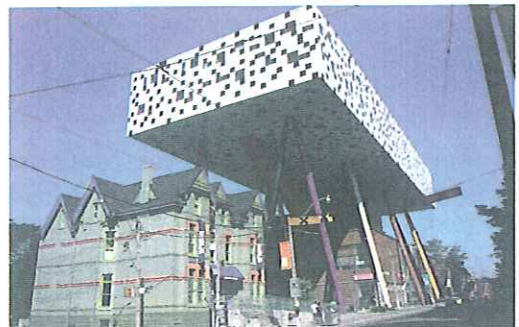
は、既存建築物を覆うように改装され、世界第5位の規模を持つ博物館となった。

08年11月には「オンタリオ・アートギャラリー」も既存建築物外装を増築して近代的な姿に出来上がった。

08年2月、トロント市は新たな都市づくり戦略「クリエイティブ・シティづくりフレーム」を策定した。これは、持続的な都市の発展を確実なものにする計画であった。

アジェンダの付属書類として位置づけられ、「創造的都市・トロント」を実現するために、どのように経済競争力を増加させることができるかを詳述にまとめたものである。

その主題は、①生産的な創



オンタリオ美術デザイン大学・シャープセンター

トロント市は「トロント大気基金」を設立、05年までの17年間で20%のCO₂を削減、「世界150都市の中で最もCO₂排出量を削減」し、世界をリードしている。

また、「自転車利用が推進され、かつ中心部ビルの各地下部分を連結する歩行者道『PATH』の整備など歩行者優先の街づくり」が行われている。PATHは総延長127キロ、地下街の商業床は約37万平方メートルで、利用者は10万人/日である。

環境都市・トロントの実践

造性②市民の創造性③コミュニティの結合である。



ロイヤル・オンタリオ・ミュージアム「ROM」

自前型まちづくり手法 世界初のBIA（BID）導入都市ー現在世界最大のBIA設立数

今日、世界各地の中心市街地活性化は、地区内の関係者自らが主体的に取り組み展開が強く認められるようになっている。その代表的手法の一つが、「対象地区内不動産所有者が自ら納税して地区活性化の事業を行うBID（Business Improvement District）」の手法である。

現在、「アメリカ、カナダ、南アフリカ、セルビア、イギリス、アイルランド、ドイツ」などで導入されている。

カナダでは「BIA（Business Improvement Area）」と呼ぶ。



ウォーターフロント地区の完成模型

世界で初めてBIA（BID）を導入したのは1970年、トロント市の「プロアーウエスト・ヴィレッジ（Rooftop West Village）地区」である。

また、世界で最もBID（BIA）を導入している都市はトロント市で、08年9月現在65地区。次いで、ニューヨーク市の60地区となっている。

ウォーターフロント再生事業を推進

トロント市は、カナダ連邦政府、オンタリオ州と共同で01年11月1日に「トロント・ウォーターフロント再活性化棟」（07年5月に「ウォーター



第1期事業の観光栈橋、商業・住宅施設整備

フロント・トロント棟」に改称）を設立した。

オンタリオ湖沿岸約202.34キロを5地区に区分し、30年までに総事業費約4300億円を投入して、カナダ国民、オンタリオ州民、トロント市民のために「生活、働く、訪れる場所」を創り、トロント市が世界でベストな場所の一つになることを保証する開発に着手している。

世界のロンドン、ニューヨーク、ボストン、バルセロナなどで成功したウォーターフロント開発では、事業の統合的戦略を調整・監視するための強い権限を持った事業組織が、再生事業にとって不可欠であることが示されていることから、会社形態での事業

化を選択したという。

「事業の使命」は、知識型産業の創造により経済成長を促進し、「美しく、持続可能な新しいコミュニティと公園及び公共空間を創出することにより、21世紀におけるグローバルシティのウォーターフロントを持つトロントを創り上げること」としている。

CEOのJ・キャンベル氏は、「私たちのビジョンは地区内関係者、行政、民間企業が協働し、ウォーターフロント地区を持続可能な文化産業・商業機能、公園・公共空間、居住コミュニティを創り上げる」と語ってくれた。

なんぶ・しげき

1952年宮城県生まれ。京都工芸繊維大学大学院博士課程修了。現在、㈱都市構造研究センター代表取締役社長、博士、一級建築士、再開発プランナー。



ウォーターフロント・トロント棟CEOのジョン・キャンベル氏（左側）